

義母の支え

新たな人生の出発の日、開業と結婚が重なるというあわただしい一日だった。身内だけで結婚式を終えた後、仕事は気掛かりだが、妻の憲子に悪い。人並

私の履歴書

江 頭 匡 一
え がしら きょう いち

⑥

みに新婚旅行らしくどこかに行かなければならない気がして、そのまま西鉄電車に乗り、近くの二日市温泉に出掛けた。当時は宿泊するにも米を持っていかねばならず、何も手当てしていなかった私は、駅を降りて慌てて米の手当てをしたものだ。

温泉に一泊しただけで、翌朝宿を出るとそのまま開業したばかりの福岡・新天町の店に顔を出し、家内には「すぐ戻るから」と言っておく。喫茶店で待たせた。とはいえ、瞬間に時間は過ぎ、迎えに行ったらのはそれから何時間もたつてからである。一人で待っていた家内は私の顔を見るなり涙を浮かべた。

だが、当時の為替レートは1ドル150円で、仕事をすればするほど赤字だ。何人かに話をもちかけたが、だれも乗ってくれない。そのうち私は自分でそろばんをはじめてみた。「今はとても引き合わないが、後一年もしないうちに必ず1ドル150円くらいになるはず。なんとか一年持ちこたえればもうかる」と結局、その仕事を引き受け、福岡県春日原の基地内に店を開

開業資金2度用立て

米軍店舗、初日焼失の災難

た。事業を興したものの、当初はその日の生活費にも困るありさまだ。翌年、長男が生まれ、大空への夢を託して翼(よく)と名付けた。

いた。理髪店から美容院、洋服仕立て、自動車修理、写真現像(DPE)などを始めた。開業のときに、文字通り支えてくれたのが義母の水野咲子だった。関門が多かった私たちの結婚を後押ししてくれた義母はこのときも、好意をもって私の話を聞いてくれ、開業資金を用立ててくれた。娘婿の私を連れて古い付き合いの西日本無尽(現西日本銀行)の堀勇助取締

た。事業を興したものの、当初はその日の生活費にも困るありさまだ。翌年、長男が生まれ、大空への夢を託して翼(よく)と名付けた。そんなある日、米軍のシユライナー中佐が事務所を訪ねてきた。基地の見習いコック時代、特に目をかけてくれた中佐だ。米軍PX(売店)でドル建ての値段で仕事をする指定商人を探してほしいと頼まれた。

た。理髪店から美容院、洋服仕立て、自動車修理、写真現像(DPE)などを始めた。開業のときに、文字通り支えてくれたのが義母の水野咲子だった。関門が多かった私たちの結婚を後押ししてくれた義母はこのときも、好意をもって私の話を聞いてくれ、開業資金を用立ててくれた。娘婿の私を連れて古い付き合いの西日本無尽(現西日本銀行)の堀勇助取締

役(当時)のところに出向き、「この人は今度米軍の指定商人になるので、水野病院を担保に七十万円を貸してやってください」と言ってくれたのだ。さっそく、その資金で人を集め、商品や器材も運び込み、さあ開業という当日の未明、突然ろそのように災難は降りかかってきた。漏電が原因で米軍春日

担保に入れたこの病院がなくなるのだから、もう一度頑張りなさい」と言った。外出から戻ったばかりの義母は、また着物を着なおして、再び私を連れて、また西日本無尽の堀氏のところへ。そして「不幸にして焼けてしまった。あと五十万円貸してやってください」と頼んでくれた。



義母の水野咲子

あの日は小雨が降っていた。傘もささずに後からしよぼしよぼしていた私の目には、蛇の目傘の義母の後ろ姿と白い足袋がやけに印象に残っている。そうして調達し

原基地のPX本部から出火。私の店も類焼し、すべて灰塵(かいじん)に帰した。もちろん火災保険にも入っていない。茫然(ぼうぜん)自失。

てくれた資金のおかげで設備を再建し、四七年七月にやっと開業にこぎつけた。気丈で厳しい人だったが、娘婿の私を信頼し、事業家としての将来を見込んでくれた義母には懐かしさと感謝の気持ちでいっぱいだった。私の家の仏間に座るとき、だれよりも先に、義母に手を合わせる。

よろやく自らを奮い起こすと、すぐに水野病院に報告に走った。言葉を失って震えんばかりの義父の横で、義母は、「焼けてしまったものは仕方ない。このままじっとしていたら、

手を手を合わせる。(ロイヤル創業者取締役)